

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】令和2年11月12日(2020.11.12)

【公開番号】特開2020-142103(P2020-142103A)

【公開日】令和2年9月10日(2020.9.10)

【年通号数】公開・登録公報2020-037

【出願番号】特願2020-82488(P2020-82488)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 0

【手続補正書】

【提出日】令和2年8月28日(2020.8.28)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

遊技を行うことが可能であり、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、

可変表示を実行し、第1表示領域および第2表示領域を含む表示領域において可変表示の表示結果を導出表示可能な可変表示実行手段と、

可変表示の表示結果として特定表示結果が導出表示されたときに前記有利状態に制御可能な有利状態制御手段と、

遊技者にとっての有利度が異なる複数の設定値のうちのいずれかの設定値に設定可能な設定手段と、

設定された設定値に応じて異なる割合により前記有利状態に制御することを決定可能な決定手段と、

いずれの設定値に設定されたかを特定可能な設定値情報を出力可能な情報出力手段と、前記情報出力手段から出力された設定値情報にもとづいて、示唆演出を実行可能な演出実行手段と、を備え、

前記第1表示領域において前記特定表示結果が導出表示されて前記有利状態に制御される場合と前記第2表示領域において前記特定表示結果が導出表示されて前記有利状態に制御される場合とで、有利度合いが異なり、

前記演出実行手段は、前記情報出力手段から出力された設定値情報が正常でない場合、前記複数の設定値のうち遊技者にとって有利度が低い所定の設定値に対応した割合により前記示唆演出を実行可能である

ことを特徴とする遊技機。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 7】

そのような遊技機では、可変表示を実行し、表示領域において可変表示の表示結果を導出表示可能に構成されている。例えば、特許文献1には、遊技者にとっての有利度が異な

る複数の設定値のうちのいずれかの設定値に設定可能に構成され、設定された設定値にもとづいて有利状態の制御を実行可能に構成されたパチンコ遊技機が記載されている。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

【特許文献1】特開2010-200902号公報

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

しかしながら、特許文献1に記載された遊技機は、改良の余地があった。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

そこで、本発明は上述した遊技機を改良した遊技機を提供することを目的とする

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0011】

(手段A) 本発明による遊技機は、遊技を行うことが可能であり、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、

可変表示を実行し、第1表示領域および第2表示領域を含む表示領域において可変表示の表示結果を導出表示可能な可変表示実行手段と、

可変表示の表示結果として特定表示結果が導出表示されたときに前記有利状態に制御可能な有利状態制御手段と、

遊技者にとっての有利度が異なる複数の設定値のうちのいずれかの設定値に設定可能な設定手段と、

設定された設定値に応じて異なる割合により前記有利状態に制御することを決定可能な決定手段と、

いずれの設定値に設定されたかを特定可能な設定値情報を出力可能な情報出力手段と、前記情報出力手段から出力された設定値情報にもとづいて、示唆演出を実行可能な演出実行手段と、を備え、

前記第1表示領域において前記特定表示結果が導出表示されて前記有利状態に制御される場合と前記第2表示領域において前記特定表示結果が導出表示されて前記有利状態に制御される場合とで、有利度合いが異なり、

前記演出実行手段は、前記情報出力手段から出力された設定値情報が正常でない場合、前記複数の設定値のうち遊技者にとって有利度が低い所定の設定値に対応した割合により前記示唆演出を実行可能である

ことを特徴とする。

(手段1) 他の遊技機は、遊技を行うことが可能な遊技機であって、可変表示を実行し、

第1表示領域（例えば、図9-2（A）に示す分割領域全体）および第2表示領域（例えば、図9-2（B）に示す分割領域内の端部領域）を含む表示領域において可変表示の表示結果を導出表示可能な可変表示実行手段（例えば、演出制御用CPU120におけるステップ171～S173を実行する部分）と、可変表示の表示結果として特定表示結果（例えば、大当たり図柄）が導出表示されたときに遊技者にとって有利な有利状態（例えば、大当たり遊技状態）に制御可能な有利状態制御手段（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ100におけるステップS114～S117を実行する部分）とを備え、第1表示領域において特定表示結果が導出表示されて有利状態に制御される場合と第2表示領域において特定表示結果が導出表示されて有利状態に制御される場合とで、有利度合いが異なる（例えば、分割領域内の端部領域において大当たり図柄が確定表示される場合には、分割領域全体で大当たり図柄が確定表示される場合と比較して、確変大当たりとなることに対する期待度（確変期待度）が高い）ことを特徴とする。そのような構成によれば、可変表示の表示結果を導出表示する場合の演出効果を高めることができる。